

少数者愛する社会に

生きる語る

神奈川県内の高校。約50人の教員らを前に、牧師の中村吉基さん(51)が柔らかく語りかけた。

「私は男性同性愛者、ゲイです。そして、そのことを公にしております」

「旅する牧師」を自称する。今は特定の教会には属さず、全国を回って性的少数者(LGBT)について話をしたり、当事者団体の設立を支援したり。仏教の集まりに出向くこともあれば、キリスト教の会合に呼ばれることもある。都内の高校では聖書科の講師も務める。

日本ではキリスト教徒も少数派だ。一つの少数派「ダ

ブル・マイノリティー」に属する身として、中村さんは講演先で訴える。

「『自分はおかしいんじゃないか』と思っている子どもたくさんいる。ぜひ味方になってあげてください」

◇
キリスト教徒の祖父母を持ち、金沢市に生まれた。15歳で洗礼を受けた。

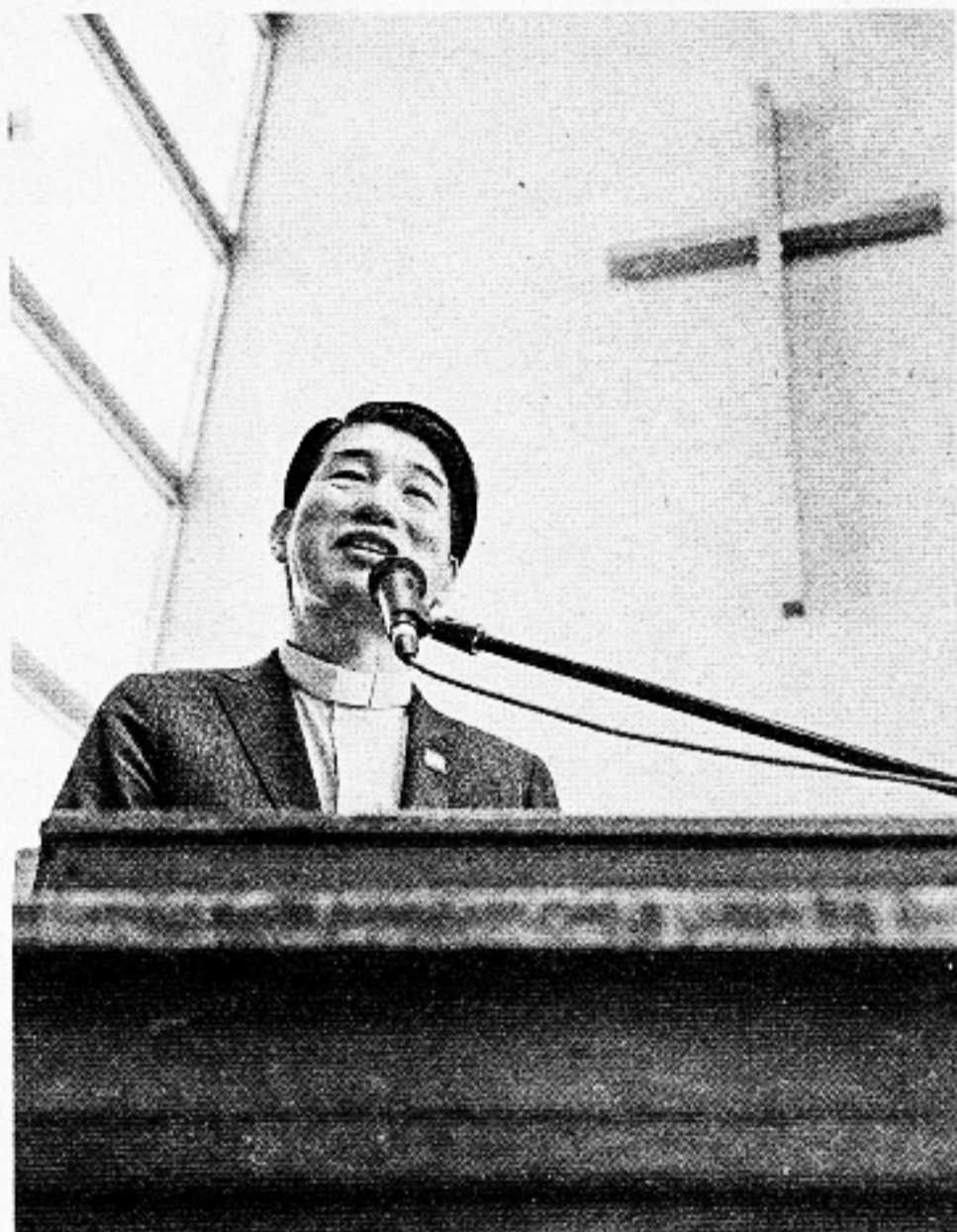
同性の先輩に憧れる気持ちに気づいたのは中学生の時。愛読していたアイドル雑誌には「(同性愛は)成

人すると治る」とあり、そう信じていた。しかし大人になっても異性を好きにならない。1993年、東京で農業の専門紙に就職。新宿2丁目に足を運ぶようになりゲイの友達も増えた。

◇
教会の関係者らからは「いつまで独身なの」と言われ、その度に言葉を濁し続けた。

◇
転機は95年秋。米ニューヨークを観光で訪れた時、聖ヨハネ大聖堂で、添乗員

人すると治る」とあり、そう信じていた。しかし大人になっても異性を好きにならない。1993年、東京で農業の専門紙に就職。新宿2丁目に足を運ぶようになりゲイの友達も増えた。



教会で語る中村さん。多くの人と向き合うことを心がけている

同性愛の牧師 訴えの旅

がこう説明した。

「ここはエイズ患者の葬儀を積極的に行っている、とてもユニークな所です」

◇
「隣人愛を説くのがキリスト教のはずだ」。帰国後、神学校で学び、プロテスタントの「日本基督教団」の牧師になった。2004年、新宿のマンションの一室で、同性愛者であると公にして教会を開いた。

かつては聖書の一節が同性愛を禁じていると解釈されてきた。教会を開いた当時、一部のクリスチャンからは「聖書を歪曲している」と批判も受けた。

だが教会を開いてみると、「同性愛者だと告白したら、教会への出入りを断られた」という相談が次々と寄せられた。資金面の問題から昨年3月に教会を解散するまでの14年間、計800人ほどの相談者と向き合った。

◇
LGBTを取り巻く環境は変わり始めている。

野党は昨年の臨時国会に「差別解消法案」を提出。

自民党も、当事者が抱える困難の解消を目指す「理解増進法案」の国会提出を模索している。東京五輪・パラリンピックを来年に控える東京都は今年4月、差別根絶を目指す人権条例を施行した。

◇
新約聖書には「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」という一節がある。この一節を心に刻み、色々な場所に足を運び、様々な境遇の人と話をする。自宅では、11年前に「結婚式」を挙げた会社役員のパートナーとともに聖書を読む。

「『隣人を愛せよ』という言葉には、『自分を愛するように』というくだりが添えられている。困っている近くの人を、自分と同じように大事にできる社会にしたい」。進む道に、迷いはない。

(安田信介)

* 「生きる語る」は今回で終わります。